

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「事業所理念」としてホーム内の玄関と廊下に掲げて管理者と職員が共有している。また、朝の誓いを介護への心構えとして毎日読み合わせるにより共通の認識となっている。	事業所理念だけでなく、月ごとの具体的な目標や朝の誓いなど介護者としての姿勢を常に意識できるよう、職員全員が日々確認しあってケアにあたっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会に加入し、公民館での文化祭やふれあい会などに参加して交流を深め、地区の獅子舞や音楽ボランティア等の受け入れを行っていたが、今はコロナ禍でほとんどふれあいが無い。	現在はコロナ禍なので交流は行われていないが、利用者の紹介が地域の方から直接あるとの話があり、信頼関係が築けているためだと思われます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事に参加したり、地区消防団の方や役員の方などに見学していただき理解を深めていた。多目的ホールの開放はまた先延ばしになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	区長、民生委員、市の担当者、近隣の地域包括支援センター長、家族会会長を迎えて年6回行っている。ホームの現状を踏まえての意見交換や指導はホームの体制にも大きく貢献している。	左記の方々の参加を得て、貴重な話し合いが年6回もたれ、丁寧な記録が残されています。他施設の情報も得ながら充実した会議で、日々のケアに活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にも参加いただき、有意義な指導やアドバイスにより、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議の参加はもちろんのこと、法改正の伴う情報等、市役所に直接出向き確認や指導を受け、密に連携をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを目指し「身体拘束廃止に関する指針」をまとめた。年2回全職員の理解が深まるようにホーム内研修を行い、ケアの向上に努めている。	身体拘束の問題点等については職員研修でしっかり身につけているが、生命にかかわるため実際に拘束せざるを得ない方もいますが、少しずつでも改善できる方法を模索し、職員全員で試行錯誤し、改善点にたどり着いた話が聞けました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と共に年2回のホーム内研修を行い、身体的虐待や心理的虐待、ともに全職員が意識し注意している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個人の権利を擁護することは、尊厳と共に重要であると研修を通して職員も理解している。現在成年後見制度を利用されている入居者がお二人おり、制度活用により安心した生活ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ずご本人・ご家族に見学していただき、契約内容の説明後は十分に理解していただけただか、不安をとるための話し合いも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ感染予防の関係で面会回数は減っているが、来訪時には必ず様子をお伝えすると共に、年に1回意見・要望をお聞きするアンケートをお願いしている。また、「桜のたより」や意見箱設置も引き続き行っている。	コロナ禍で面会の制限があるが、ケアプランの確認時や電話連絡時等に、できるだけ施設での様子を伝えたり家族の意向を確認したりしています。運営推進会議の中でも意見を聞いています。家族のアンケートでは安心しているとの回答が多くありました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案の疎通性はよく、全員参加のミーティングはできないが、機会があるごとに問題は取り上げ納得いくまで話し合い、前に進んでいる。	キャリアパスの導入に向け、年二回以上の面談が行われています。職員の意見を吸い上げるのみならず、職員の資質の向上のためのプログラムが整備されており、職員の意欲を引き出す機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の施設長との個人面談を行うと共に、日々の相談も風通しの良い状態にしている。今年より職業能力評価シートを活用して、「人材育成」と「自身を把握する」指標にする予定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間OJT計画により特にホーム内研修に力を入れ、毎月目標を掲げて看護師・認知症ケア専門士等を中心に、昼休みに3~4人ずつ行っている。OFF-JTも計画を立てて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	入居希望者には出来るだけ担当ケアマネジャーさんにも見学に来ていただき、同業者目線でホームの良い点・改善点等を伺い、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を抱えての初期段階には、全職員が傾聴を心掛け、気持ちに寄り添い信頼関係を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に際してはご家族の困りごと、不安なことに耳を傾け、今までの入居者との関係を踏まえてより良い方向に行くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者とご家族の求めていることを全員で把握して、自立度を落とすことなく本人の希望を受け入れて支援の方向を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の心に重すぎない介護を心掛け、職員も共に生活し、笑い合える関係として「ゆっくり・のんびり・にっこり」と過ごしていきたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の気持ちにも寄り添いながら、入居者を理解し、共に支え合っの支援を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染予防前は馴染みの方々の面会も自由だったので、友人・ご親戚の方々の面会が多くあり、共に過ごす時間を大切にしていた。	コロナ禍であり、入所前の馴染みの関係の継続は難しいが、事業所内での新たな関係が馴染みの関係となり、利用者の気持ちの寄りどころになりつつあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ほとんどの入居者が日中はホールで過ごしているため、入居者同士の会話や支え合いができる様に職員も関わり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された方はそれぞれ適切な支援や医療機関に恵まれているので、その後の支援は特にしていないが、退所後のご家族より清拭提供などで助けられている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の入居前の生活歴や価値観・趣味などを把握し、何気ない会話を大切にそれぞれが無理のない楽しみを持って生活出来る様に心掛けている。	思いの把握が困難な方には、テレビや本、写真等あらゆるアプローチを試み、利用者の小さな反応を汲み取り、思いを見つけようとしている姿勢が、具体的な話の中から伺われました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人からの聞き取りと、ご家族からのお話や、日々の会話の中から生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	共に過ごす中で、本人の希望をできる限り実現するように、それぞれの一日の過ごし方を考えて添うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者やご家族の意向を踏まえて課題を明確にし、個別に1ヶ月目標を立て日々の記録の中でモニタリングを行い、ケアプランに反映する流れができた。	高い資質の介護職員集団が課題を見つけ、ケアプランに基づいた実践を行い、きめ細かな記録からモニタリングをし、職員全員が参加できる体制でケアプランが作られ、ケアプランが日常のケアの要としてしっかり定着しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録やバイタルの他に排便管理や食事量・水分量等の個別管理をして、体調に合わせた介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	遠くに出かけられない入居者のニーズに対応するため、外庭での散歩を多くしたり、ご家族の要望で入居者と共に外食に出掛けたりもしていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方の音楽ボランティアなどの参加をお願いし、楽しみの時間が少しでも多く摂れるようにしている。コロナ禍の今はボランティアはお断りしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院が隣接しており、かかりつけ医による健康管理もできている。歯科医院は往診対応もしており、専門医院はご家族の協力を得ている。	入所時にかかりつけ医の希望を確認し、現在はほとんどの利用者が、隣接する病院をかかりつけ医として密に連携をとっています。専門医等の受診については、家族対応のため事業所から情報提供書で連携をとっています。また状態によっては家族とともに施設側も付き添うこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の服薬の分包や管理は看護師が行い、入居者の体調に対しては介護士・看護師・医師との連携がスムーズになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供書などにより詳しい情報を交換して良好に行われている。およそ3ヶ月ごとに全員の定期受診も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在ご家族からの希望により重度化した入居者の介護も行っている。終末期の対応はご家族と十分話し合い、医師を交えて方針を共有し、気持ちに寄り添った介護をしている。	看取り指針を作成し、隣接のかかりつけ医と密に連携が取れる体制になっています。また、刻々と変化する利用者の状態に不安を覚える家族に寄り添い、安心を与えています。家族の思い、事業所のケアの方向性、医療の支え等により、穏やかな看取りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルは全職員で理解に努めている。また年1回以上のホーム内研修を行い実践しているが、隣接する病院の医師に頼るところも大きい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は防災訓練として火災・水害・地震を想定して行い、ホーム外での支援としては地域との協力も築いている。今年度はBCP業務継続計画も作成した。	年2回夜間想定で防災訓練を行っています。夜勤者2名に利用者18名をどう救出するか常に意識した訓練を行っています。地域の避難場所として開放したり、地域の方の協力(救出した利用者の見守り等)も依頼しています。水害時は隣接の協力病院に避難できるよう依頼しています。	地域の方の協力体制の強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護マニュアルもできて、常に意識することを心掛けている。個人の尊厳や誇りに対しては敬う気持ちを育てるような研修も行っていきたい。	ユマニチュード(ケア技法)を導入し、職員が、自分ならこのケアはどうだろうと常に意識しながら実践しています。排泄時の声掛けやプライバシーの確保等利用者の立場になってケアしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で入居者との会話を大切にしている。「発する言葉の中に真意がある」ので自己決定ができるような声掛けをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事とおやつ以外の時間帯は、個々の生活のペースで生活しており、自立度の高い方で居室の片づけや掃除を行って人がおり見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪や爪の長さには常に気を配っているが、おしゃれとしての支援は清潔優先になってしまい、楽しむところまでは行っていないと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養面での管理はしっかりしており、バラエティーにも富んでいるが、今は入居者と共に作ることはできず、食事介助が増えた。個別対応として粥・きざみ・ミキサー食などにし、楽しい時間になるように努めている。	食事を楽しんでもらうため、提供する食事の見た目を大切にしています。施設の庭で取れた野菜を食卓にのせて季節を感じていただいたり、行事食も提供しています。また食事の準備で野菜の下ごしらえやテーブル拭き等、参加の機会も提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量、栄養バランス、水分量とも個別に把握し、嗜好による別メニューにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	介助の必要な人を含めて全員が毎食後口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間に消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	車いす利用者も介助により立位が保てるうちは、夜間もおむつにせずトイレ使用を目標に職員が頑張っている。	利用者の排泄パターンを把握したうえで、トイレでの排泄を大切に、利用者の残存機能を活かしたケアを行っています。夜間のトイレ誘導も利用者の睡眠状態に合わせ、無理のない範囲で介助し、オムツ無しを目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による精神に与える影響の大きさを理解して、排便は個別に表にして管理しながら、水分・運動・服薬で対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	1人週2回、見守りと介助のもと個別入浴を楽しんでいる。重度者は2人対応で機械浴を使用しており、毎月変わる季節の湯も味わってもらえている。	機械浴が完備されているため、利用者すべてが週2回湯船に入ることができ、入浴を楽しんでいます。毎月変わる季節風呂(菖蒲 りんご パラ マスカット 金木犀等)のパネルを浴室にかけ、利用者を楽しませています。また入浴を嫌がる利用者には時間や職員を変えるなど工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間対応は個別のリズムに合わせたトイレ介助をして、安全に眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員がわかるように個別服薬表と効能を張り出し、服薬に対する確認に努めている。症状の変化については、看護師・医師と連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の得意とする編み物やぬり絵など楽しみの支援をしている。役割として洗濯物たたみ・雑巾縫い等をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出等が叶わないので、天気の良い日などは外庭で、体操や畑の野菜採り等で気分転換を図っている。日よけに育てたゴーヤやとまと・きゅうりの収穫は楽しみのひとつとなっていた。	コロナ禍で外出はできないが、庭に出て野菜の収穫や、外気浴を楽しんでいます。また、きれいな景色や昭和の生活、昔の歌のDVDを見て頂くなど、外出できない分楽しんでもらえるような工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホーム内ではお金を使うことがなく、金銭の理解ができなくなっているため、必需品はご家族からの預り金により揃えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話所持の方も数名おりましたが、ご家族の希望により現在は使用者無しの為、ホーム内電話の取次は自由に行っている。年賀状はアイデアを出してご自分のご家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中ほとんどの入居者が過ごすホールは、みんなの顔が見られるように集合テーブルにし、職員と共に過ごせる空間づくりに配慮している。また、毎月大型の貼り絵を仕上げ、季節がわかるようにしている。	利用者が集まるホールは、ゆったりとした雰囲気、自分の家にいるような生活感が感じられ、職員が食事を作っている姿も間近に見える配置になっています。目で見て匂いも感じられるので、楽しみの一つになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	集合テーブル以外にソファ部分等を2か所作っており、気の合う入居者同士が座って語り合う姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの個室はご家族とご本人の好みにより馴染んだ家具を持ち込み、個々に趣があり清潔で居心地の良い空間とするよう清掃を支援している。	コロナ禍の為、居室の飾り物などは衛生面を考慮し、利用者の同意を得て取り外しています。家具等使い慣れたものではあるが、利用者の目線に合わせて低くしてあります。又、地震時の防災対策にもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室からトイレやホールなどに、手すり使用で歩行できる様になっている。廊下の手すりは個別の立ち上がり体操にも使用している。トイレも車イス自走の方が一人で使える空間がある。		